
永嶋正春年譜

1948年（昭和23年）

2月 埼玉県上尾市に生まれる

1971年（昭和46年）

3月 東京理科大学理学部第1部化学科卒業

4月 東京芸術大学大学院美術研究科保存化学専攻（修士課程）入学

1973年（昭和48年）

3月 東京芸術大学大学院美術研究科保存化学専攻（修士課程）修了

4月 東京芸術大学大学院美術研究科研究生（6月まで）

1974年（昭和49年）

7月 総理府宮内庁正倉院事務所保存科調査室に採用（総理府技官・研究職、1982年12月まで）

1983年（昭和58年）

1月 国立歴史民俗博物館助手情報資料研究部に転任

1985年（昭和60年）

11月 国立歴史民俗博物館助教授情報資料研究部に昇任

1990年（平成2年）

4月 図書館情報大学図書館情報学部非常勤講師（1999年3月まで）

1994年（平成6年）

4月（福岡県）アジア学術・文化交流センター（仮称）整備検討委員会委員（1999年3月まで）

1998年（平成10年）

4月 千葉大学文学部非常勤講師（1999年3月まで）

1999年（平成11年）

4月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授に併任

2001年（平成13年）

東京芸術大学大学院非常勤講師（集中講義）

徳島大学総合科学部非常勤講師（集中講義）

2004年（平成16年）

4月 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館助教授研究部に配置換

2007年（平成19年）

4月 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館准教授

4月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授に併任

2013年（平成25年）

1月 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館教授研究部に昇任

永嶋正春主要業績目録

[1978年]

「粉地彩絵八角几の彩色」(『正倉院の木工』日本経済新聞社, 1978年3月)

[1981年]

「正倉院における空気汚染の調査—二酸化鉛法によるイオウ酸化物汚染の測定—」(『正倉院年報』3号, 1981年3月)

[1984年]

「寿能泥炭層遺跡出土「飾り弓」に見る縄文時代の漆工技術」(『寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書—人工遺物・総括編(遺構・遺物)—』埼玉県立博物館・埼玉県教育委員会, 1984年3月)

「中山遺跡出土漆関係遺物に見る縄文時代の漆工技術」(『中山遺跡発掘調査報告書』秋田県五城目町教育委員会, 1984年3月)

「(施設紹介) X線分析室〔第3調査室〕」(『歴博』5号, 1984年6月)

「正倉院の保存システム」(『JP REPORT』45号(特集:「紙」と保存を考える), 日本紙パルプ商事(株), 1984年11月)

「歴博における文化財調査用X線機器」(『理学電機ジャーナル』15(1984), 1984年)

[1985年]

「縄文時代の漆工の技術」(第14回歴博講演会, 1985年2月2日)

「金環塚古墳出土遺物の科学的調査」(『上総 江子田金環塚古墳』市原市教育委員会, 1985年3月)

「徳丹城とその施釉瓦について—施釉瓦の蛍光X線分析結果—」(『国立歴史民俗博物館研究報告』6集, 1985年3月)

「縄文時代の漆工技術—東北地方出土籃胎漆器を中心に—」(『国立歴史民俗博物館研究報告』6集, 1985年3月)

「須恵器杯形土器内面の漆様付着物について」(『上三川高校地内遺跡調査報告』(財)栃木県文化振興事業団・栃木県教育委員会, 1985年3月)

「(歴博講演会より) 第14回 縄文時代の漆工の技術」(『歴博』10号, 1985年4月)

「(調査ノート) 漆製品とその要具」(『歴博』14号, 1985年12月)

[1986年]

「土器の赤彩顔料について」(『宇都宮青陵高校地内遺跡調査報告』(財)栃木県文化振興事業団・栃木県教育委員会, 1986年3月)

「(星の宮神社古墳遺物の分析) X線機器による非破壊的調査」「(米山古墳) 埴輪の赤彩顔料について」(『星の宮神社古墳・米山古墳』(財)栃木県文化振興事業団・栃木県教育委員会, 1986年3月)

[1987年]

「中世出土漆器の塗膜層構成について」(『西川島 能登における中世村落の発掘調査』石川県穴水町教育委員会, 1987年3月)

「鹿沼市稲荷塚遺跡出土品の材質と技法—古墳時代後期の、漆による表面仕上げをした土師器を中心に—」(『稲荷塚・大野原』栃木県教育委員会, 1987年3月)

「北江古田遺跡出土赤色漆塗り遺物の塗膜層構成について」(『北江古田遺跡発掘調査報告書(2)』東京都中野区・北江古田遺跡調査会, 1987年3月)

「富山県小杉町黒河尺目遺跡出土須恵器内面の漆様付着物について」(『七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(5)』富山県教育委員会, 1987年3月)

「町内古墳出土遺物のX線写真について」(『益子町史 第1巻 考古資料編』益子町史編さん委員会・益子町,

-
- 1987年3月)
〔(資料あれこれ) 紐表現の見られる石製合子—マロ塚古墳出土品—〕(『歴博』22号, 1987年4月)
〔歴史資料と自然科学(1) X線で覗いた屏風〕(『歴博』26号, 1987年12月)
〔1988年〕
特別公開『王賜 銘鉄剣—市原市稲荷台1号墳出土—』の実施(於: 歴博), 国立歴史民俗博物館・市原市教育委員会・(財)市原市文化財センター, 会期1988年2月16日~3月6日
〔土製球状耳飾り及び土器片の赤彩顔料分析〕(『鹿島脇遺跡・追の窪遺跡』(財)栃木県文化振興事業団・栃木県教育委員会, 1988年3月)
〔宮脇遺跡出土赤色顔料について〕(『千葉県木更津市 宮脇遺跡』(財)君津郡市文化財センター, 1988年3月)
〔(資料あれこれ) 考古資料の贋物と本物〕(『歴博』29号, 1988年6月)
〔耳環の素材と製作技法について—X線による調査結果をもとにして—〕(『井上コレクション 弥生・古墳時代資料図録』(八王子市郷土資料館資料) 編集・発行 小川貴司, 1988年6月)
『王賜 銘鉄剣概報 千葉県市原市稲荷台1号墳出土』〔田中新史他と共著〕「第1章(4) 銘文発見の経緯」
「第2章(3) 銘文の現状」「第2章(4) 研ぎ出しの必要性とその問題点」(編者 市原市教育委員会・(財)市原市文化財センター, 吉川弘文館, 1988年9月)
〔考古学と自然科学 X線・赤外線・顕微鏡の活用〕(『歴史の読み方3 考古学への招待』週刊朝日百科 日本の歴史 別冊, 朝日新聞社, 1988年12月)
〔1989年〕
〔畑ヶ田新林遺跡出土縄文土器片の赤色塗彩について〕(『成田市畑ヶ田地区埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)千葉県文化財センター, 1989年2月)
〔漆仕上土師器について〕(『東金市久我台遺跡』(財)千葉県文化財センター, 1988年3月)
〔北海道泊村茶津洞穴純貝層中より出土したガラス玉〕(『茶津洞穴遺跡発掘調査報告書』泊村教育委員会, 1989年3月)
〔月ノ輪山1号墳出土「耳環」の材質〕(『月ノ輪山1号墳』(財)福島市振興公社・福島市教育委員会, 1989年3月)
〔坏形土器内面に付着する漆紙について〕(『母畑地区遺跡発掘調査報告27』(財)福島県文化センター・福島県教育委員会, 1989年3月)
〔友野散布地出土漆紙について〕(『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告73』岡山県教育委員会, 1989年3月)
〔八重原1号墳出土短甲の漆塗りについて〕(『古墳時代研究Ⅲ—千葉県君津市所在 八重原1号墳・2号墳の調査—』古墳時代研究会, 1989年5月)
〔辛亥年 銘鉄剣(国宝・文化庁, 埼玉稲荷山古墳出土) 展示指導管理(奈良国立博物館特別展『発掘された古代の在銘遺宝』) 会期1989年8月26日~9月24日)
〔(巻頭エッセイ) 漆から見た歴史〕(『歴博』38号, 1989年12月)
〔1990年〕
〔中世の漆器—出土品を中心に—〕(第73回歴博講演会, 1990年1月13日)
〔出土土器の黒色・赤色付着物について〕(『戸神諏訪遺跡』群馬県教育委員会, 1990年2月)
〔町内古墳出土遺物のX線的調査〕(『市貝町史 第1巻 自然・原始古代・中世資料編』市貝町史編さん委員会, 1990年3月)
〔荒子小学校校庭Ⅱ遺跡出土銅印の蛍光X線分析結果〕(『群馬県前橋市 荒子小学校Ⅱ・Ⅲ遺跡』山武考古学研究所, 1990年3月)
〔タテチヨウ遺跡出土の赤色漆塗櫛にみられる漆技術について〕(『タテチヨウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』島根県教育委員会, 1990年3月)
〔鋸南町下ノ坊遺跡B地点出土の漆器〕(『安房郡鋸南町 下ノ坊遺跡B地点』(財)千葉県文化財センター, 1990年3月)
〔土坑内出土漆関係資料〕(『東京大学本郷構内の遺跡 医学部附属病院地点』東京大学遺跡調査会, 1990年3月)
〔出土品にみる古代の漆工技術〕(小山市立博物館第22回企画展『漆器のある暮らし』, 1990年4月)
-

-
- 「(歴博講演会より) 中世の漆器—出土品を中心に—」(『歴博』40号, 1990年4月)
- 「中世の漆器—その技術的側面—」(『よみがえる中世6』平凡社, 1990年6月)
- (東京国立博物館蔵 朝鮮半島出土) 有銘環頭大刀修復調査会委員(第1回1990年8月30日, 第2回1990年12月12日)
- [1991年]
- 「佐倉第三工業団地・栗野 I 遺跡出土縄文前期土器片の赤彩について」(『佐倉市栗野 I・II 遺跡』(財)千葉県文化財センター, 1991年3月)
- 「余山貝塚出土の漆塗土器、赤彩土器について」(『銚子市余山貝塚』(財)千葉県文化財センター, 1991年3月)
- 「布田遺跡出土漆塗土器、赤彩土器の塗装技術について」(『一般国道9号松江道路建設予定地内 埋蔵文化財発掘調査報告所Ⅷ(布田遺跡)』鳥根県教育委員会, 1991年3月)
- 「法正尻遺跡出土土器の漆及び赤彩資料について」(『東北横断自動車道遺跡調査報告11 法正尻遺跡』(財)福島県文化センター・福島県教育委員会, 1991年3月)
- 「辛亥年」銘鉄剣(国宝・文化庁, 埼玉稲荷山古墳出土) 展示指導管理(埼玉県立博物館開館二十周年記念展『さいたまの名宝 国宝・重要文化財』会期1991年10月22日~12月8日)
- 第15回歴博フォーラム「装飾古墳が語るもの」(シンポジウム・パネラー, 1991年11月2, 3日)
- [1992年]
- 「正倉院文書に使用された彩色料について」(『正倉院文書拾遺』国立歴史民俗博物館研究図録, 1992年3月)
- 「榎作遺跡出土土師器の表面処理方法について」(『千葉市榎作遺跡』(財)千葉県文化財センター, 1992年3月)
- 「鉄剣に記された文字」「出土した鋸—その形と機能—」(『科学の目でみる文化財』国立歴史民俗博物館企画展示図録, 1992年3月)
- 「別処山古墳出土金属性遺物のX線の調査」(『別処山古墳』栃木県南河内町教育委員会, 1992年3月)
- 「多田遺跡出土の漆付着土器・赤彩土器について」(『東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅶ(佐原地区4)』(財)千葉県文化財センター, 1992年3月)
- 「小谷遺跡出土弥生時代中期(宮ノ台期)の赤色顔料について」(『小谷遺跡』(財)君津都市文化財センター, 1992年3月)
- 「(研究ノート)「王賜」銘鉄剣—象嵌銘文の表出と形態修復—」(『歴博』52号, 1992年4月)
- 「日本の耳飾り 金環と銀環」(『耳飾り その形と文化』群馬県榛東村教育委員会, 1992年10月)
- [1993年]
- 「「王賜」銘鉄剣のX線の調査と銘文の表出」(『国立歴史民俗博物館研究報告』50集, 1993年2月)
- 「土師器表面の漆仕上げ処理について」(『太宰府・佐野地区遺跡群Ⅲ』太宰府市教育委員会, 1993年3月)
- 「井手勝遺跡出土の漆資料について」(『井手勝遺跡』(財)鳥取県教育文化財団, 1993年3月)
- 「『額田寺伽藍並条里図』に見る古代の顔料」(『荘園絵図とその世界』国立歴史民俗博物館企画展示図録, 1993年3月)
- 「野場(5)遺跡出土の漆付着土器について」(『野場(5)遺跡』青森県教育委員会, 1993年3月)
- 「前二子古墳の石室塗彩赤色顔料について」(『前二子古墳』前橋市教育委員会, 1993年3月)
- 「粟島台遺跡出土木胎漆器の塗膜層構成内容について」(『千葉県銚子市仲有戸遺跡・佐野原北遺跡・荒野台遺跡・粟島台遺跡』(財)東総文化財センター, 1993年3月)
- 「多胡蛇黒遺跡出土の漆紙について」(『多胡蛇黒遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団, 1993年3月)
- 「大作古墳群出土の耳環、鉄鏃」(『袖ヶ浦市 滝ノ口向台遺跡・大作古墳群』(財)千葉県文化財センター, 1993年3月)
- 「縄文時代の漆工技術」(『化学と工業』46巻3号, 日本化学会, 1993年)
- 「漆の美 日本の漆文化と青森県」青森県立郷土館開館20周年記念特別展(1993年9月17日~10月17日, 展示協力並びに図録執筆「縄文時代の漆文化」)
- 「装飾古墳の色彩と素材」(『装飾古墳の世界』国立歴史民俗博物館企画展図録, 朝日新聞社, 1993年10月)
- [1994年]
- 「(口絵解説) 木造地藏菩薩立像(重要文化財)」(『歴博』63号, 1994年2月)
-

-
- 〔企画展示〕テーマ解説「縄文時代の漆文化」(『漆文化—縄文・弥生時代—』国立歴史民俗博物館企画展示図録, 1994年3月)
- 「縄文時代前期土器(木戸先遺跡)の赤彩技術について」(『千葉県四街道市木戸先遺跡』(財)印旛郡市文化財センター発掘調査報告書79集, 1994年3月)
- 「御山遺跡から出土した縄文時代晩期の赤色顔料について」(『四街道市御山遺跡(1)』(財)千葉県文化財センター, 1994年10月)
- 「御山遺跡古墳出土資料のX線の調査」(『四街道市御山遺跡(1)』(財)千葉県文化財センター, 1994年10月)
- 「妙経遺跡出土土器片に付着した漆について」(『妙経遺跡・井戸谷9号墳—房総導水路建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ—』(財)千葉県文化財センター, 1994年3月)
- 「出土土器の黒色・赤色付着物について」(『二之宮谷地遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団, 1994年3月)
- 「4号土坑出土の銅製鍍金具について」(『宮内遺跡発掘調査報告書』(財)印旛郡市文化財センター, 1994年3月)
- 「銅製笠鞋の蛍光X線分析結果について」(『お伊勢山遺跡の調査第5部鎌倉時代から江戸時代』早稲田大学所沢校地文化財調査室, 1994年3月)
- 「縄文・弥生時代の漆文化」(第125回歴博講演会, 1994年4月9日)
- 第16回歴博フォーラム『漆から見た縄文・弥生時代の暮らし』(「漆の技術から見た縄文・弥生時代」国立歴史民俗博物館, 1994年4月30日)
- 「考古出土品の調査と保存」(『文化財の活用と展望—平成5年度・文化財セミナー報告書—』東京都立多摩社会教育会館, 1994年5月)
- 「鉄関連遺物の調査法 自然科学的調査—X線透過法—」(『国立歴史民俗博物館研究報告』58, 59集, 1994年12月)
- 〔1995年〕
- 「古代漆の源流」(第9回「大学と科学」公開シンポジウム『古代に挑戦する自然科学』, 1995年2月1, 2日)
- 「漆から見た日本の歴史」(調布市立東部公民館文化講演会, 1995年3月4日)
- 「日本文化の中のうるし—出土資料からみて—」(松戸市立図書館市民講座, 1995年3月19日)
- 「『江戸図屏風』のX線透過像について」(『国立歴史民俗博物館研究報告』60集, 1995年3月)
- 「古代の漆工技術—漆皮箱を中心に—」(『法隆寺献納宝物特別調査概報XV 木漆工1』東京国立博物館, 1995年3月)
- 「石櫃内に残存する漆膜について」(『大竹遺跡群発掘調査報告書Ⅳ』(財)君津郡市文化財センター, 1995年3月)
- 「高崎遺跡出土燈明皿内の残存物について」(『高崎遺跡—第11次調査報告書—』多賀城市教育委員会, 1995年3月)
- 「栄町遺跡出土の漆紙について」(『日野市栄町遺跡第4分冊自然科学分析編』日野市栄町遺跡調査会, 1995年3月)
- 「新坂1号墳出土遺物のX線の調査」(『新坂遺跡・東風吹山遺跡・蒲野遺跡・西後藤遺跡』(財)山武郡市文化財センター, 1995年3月)
- 「王賜」銘鉄剣(千葉県市原市教育委員会)展示指導管理(徳島県立博物館企画展『よみがえる古代の輝き』会期1995年4月21日~5月21日)
- 「金銅製品のX線の調査」(『千葉県山武郡松尾町蕪木5号墳—横穴式石室再確認調査報告書—』山武考古学研究所, 1995年6月)
- 「シンポジウム記録 装飾古墳が語るもの(パネラー)」(『装飾古墳が語るもの 古代日本人の心象風景』吉川弘文館, 1995年7月)
- 「X線による刀剣銘文の調査と文字の表出」(歴博大学院サマーセミナー「新しい史学を求めて」, 1995年8月25日)
- 「(古代手工業への挑戦) 古代漆の源流」(『古代に挑戦する自然科学』クバプロ, 1995年9月)
- 「有機質遺物(漆製品)の観察と保存処理」(埋蔵文化財発掘技術者特別研修「保存科学基礎課程」奈良国立
-

-
- 文化財研究所埋蔵文化財センター，1995年11月10日）
- [1996年]
- 「(駄ノ塚古墳) 出土遺物に見られる材質・技法の特徴について」(『国立歴史民俗博物館研究報告』65集，1996年3月)
- 「X線による銅印の調査—手法の紹介—」(『国立歴史民俗博物館資料調査報告書 古代の印』，1996年3月)
- 「郡遺跡出土資料に見られる塗装技術について」(『郡遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』(財)君津郡市文化財センター，1996年3月)
- 「小型深鉢(縄文時代中期)内の赤色顔料について」(『千葉県佐倉市神門房下遺跡発掘調査報告書』(財)印旛郡市文化財センター，1996年3月)
- 「陰田小犬田遺跡出土土器付着漆について」(『陰田遺跡群』(財)鳥取県教育文化財団，1996年3月)
- 「青野原バイパス関連大地開戸遺跡出土縄文土器(中期)の漆様付着物、塗彩物について」(『青野原バイパス関連大地開戸遺跡』(財)神奈川考古学財団，1996年3月)
- 「甲ッ原遺跡出土漆塗土器の塗装技術について」(『甲ッ原遺跡Ⅱ』山梨県埋蔵文化財センター・山梨県教育委員会，1996年3月)
- 「栗島台遺跡出土木胎漆器の塗膜層構成内容について」(『銚子4遺跡発掘調査報告書』(財)東総文化財センター，1996年3月)
- 「沖ノ羽遺跡出土の烏帽子について」(『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅱ(B地区)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団，1996年3月)
- 「高崎遺跡出土燈明皿内の残存物について」(『高崎遺跡—第13～16次調査報告書—』多賀城市教育委員会，1996年3月)
- 「漆から見た縄文・弥生時代」(『考古学ジャーナル』401号，1996年4月)
- 「王賜 銘鉄剣(千葉県市原市教育委員会)展示指導管理(大阪府立近つ飛鳥博物館特別展『仁徳陵古墳—築造の時代』会期1996年4月16日～6月9日)
- 「夏見大塚遺跡第10次調査出土ガラス玉並びに耳環の材質について」(『夏見大塚遺跡—第10次発掘調査報告書—』船橋市遺跡調査会，1996年9月)
- [1997年]
- 熊本県教育委員会「柳町遺跡出土1号木製短甲の文字に関する検討会議」委員(1997年2月6日)
- 「柳町遺跡の「日本最古の文字」なぜ棒状留め具裏に存在？」(『熊本日日新聞』夕刊文化欄，1997年2月20日)
- 「漆と赤色顔料」(奈良国立文化財研究所1996年度保存科学研究集会，1997年2月)
- 「中野久木谷頭遺跡出土赤彩土器(縄文時代中期)の赤色顔料について」(『中野久木谷頭遺跡C地点』流山市教育委員会，1997年3月)
- 「佐倉市吉見台遺跡B地点出土の弥生土器(後期)胎土への軽石粒混和と赤彩について」(『吉見台遺跡B地点』(財)印旛郡市文化財センター，1997年3月)
- 「永田遺跡出土皿状木製品の表面塗装について」(『永田遺跡』いわき市教育委員会，1997年3月)
- 「中・近世漆製品の塗装技術」(『下戸塚遺跡の調査 第4部 中近世編—中世—』早稲田大学校地埋蔵文化財調査室，1997年3月)
- 「川原田・下弥堂遺跡出土の赤彩資料、漆資料について」(『川原田遺跡—縄文編—』長野県御代田町教育委員会，1997年3月)
- 「滝沢・宮平遺跡出土の赤彩資料、漆資料について」(『滝沢遺跡』長野県御代田町教育委員会，1997年3月)
- 「K36遺跡タカノ地点第1号竪穴住居跡床面出土漆器椀2点について」(『K36遺跡タカノ地点』札幌市教育委員会，1997年3月)
- 「中岫第1遺跡E地点出土の赤彩資料について」(『千葉県成田市南羽鳥遺跡群Ⅱ』(財)印旛郡市文化財センター，1997年3月)
- 「土器内の黒色付着物について」(『日本製鋼所遺跡発掘調査報告書』都営川越道遺跡調査会，1997年3月)
- 熊本県教育委員会「柳町遺跡出土1号木製短甲附属棒状留具の保存処理に関する検討会議」委員(1997年)
- 1997年度化学史研究発表会「日本の漆文化とその変遷」(シンポジウム「博物館と科学技術史」化学史学会，
-

-
- (要旨『化学史研究』24巻1号) 1997年6月22日)
- 「長井市内の遺跡から出土した縄文・弥生時代の漆」(山形県長井市教育委員会古代の丘資料館企画展示『ジャパン—漆器と漆の文化史展—』図録, 会期1997年9月25日～11月9日)
- 「王賜」銘鉄剣(千葉県市原市教育委員会) 展示指導管理(東京国立博物館特別展『日本のかたな—鉄のわざと武のこころ』会期1997年10月14日～11月24日)
- 「日本の漆文化と中世の漆器」(鎌倉学塾・鎌倉学フォーラム第3期『鎌倉学入門—鎌倉文化の美意識の源流を訪ねて』, 1997年11月1日)
- [1998年]
- 「印内台遺跡群(21次)墓壇出土の漆資料について」(『印内台遺跡群第21次調査報告書』船橋市教育委員会, 1998年3月)
- 「文化財の科学分析『額田寺伽藍並条里図』の調査」(週刊朝日百科『日本の国宝50』朝日新聞社, 1998年)
- 「恩田原遺跡出土銅印『王泉私印』の素材について」(『千葉県富山町恩田原遺跡—県営ほ場整備事業岩井地区埋蔵文化財発掘調査—』富山町教育委員会, 1998年3月)
- 「長岡京跡出土の銅印「福」の素材について」(『名神高速道路関係遺跡平成9年度発掘調査概要—長岡京跡左京第399次—』(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター, 1998年3月)
- 「川原田岩陰遺跡出土の赤色顔料」(『おおいた考古』9・10, 大分県考古学会, 1998年3月)
- 「富士山古墳出土土家形埴輪の彩色について」(『栃木県壬生町富士山古墳発掘調査報告書』壬生町教育委員会, 1998年3月)
- 「七社神社前遺跡出土の鉄釧に付着した布について」(『七社神社前遺跡Ⅱ—北区埋蔵文化財調査報告第24集—』東京都北区教育委員会, 1998年3月)
- 「寺野東遺跡出土漆関係資料—その漆工技術的検討—」(『寺野東遺跡Ⅳ—小山市小山東部地区工業用地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査(縄文時代 谷部編-2)—』(財)栃木県文化振興事業団, 1998年3月)
- 「有吉北貝塚出土土器の赤彩について」(『千葉東南部ニュータウン19—千葉市有吉北貝塚1(旧石器・縄文時代)—』千葉県文化財センター, 1998年3月)
- 「塚越遺跡出土鉄鍋及び住居跡柱穴底部出土の不明鉄製品について」(『千葉県印旛郡富里町富里第二工業団地土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査 稲荷谷津遺跡・狐谷津遺跡・木戸遺跡・郷山遺跡・塚越遺跡・谷津台遺跡』(財)印旛郡市文化財センター, 1998年3月)
- 「北海道の漆文化」(北海道開拓記念館第47回特別展『うるし文化—漆器が語る北海道の歴史—』講演会, 1998年9月20日)
- [1999年]
- 「変わる弥生時代の実年代」(『新弥生紀行—北の森から南の海へ—』国立歴史民俗博物館企画展示図録, 朝日新聞社, 1999年3月)
- 「古代の漆・赤色関係資料」(『更埴条里遺跡・屋代遺跡群—古代1編—』(財)長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター, 1999年3月)
- 「非破壊手法による銅印の科学的研究」(『国立歴史民俗博物館研究報告』79集, 1999年3月)
- 「装飾古墳の色彩と素材」(『国立歴史民俗博物館研究報告』80集, 1999年3月)
- 第29回歴博フォーラム「倭人とその世界—2000年前の多様な暮らし—」(パネラー, 有楽町マリオン, 1999年4月24日)
- 「歴史資料の非破壊的調査」(佐倉市公民館成人講座, 1999年6月25日)
- 「柳井茶白山古墳出土の赤色顔料」(『史跡 柳井茶白山古墳—保存整備事業発掘調査報告書—』山口県柳井市教育委員会, 1999年9月)
- 「王賜」銘鉄剣(千葉県市原市教育委員会) 展示指導管理(東京国立博物館特別展(平成館開館記念特別展)『金と銀—かがやきの日本美術』会期1999年10月12日～11月23日)
- [2000年]
- 「漆関係資料について」(『更埴条里・屋代遺跡群—縄文時代編—』(財)長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター, 2000年3月)
-

-
- 「松江市夫手遺跡出土縄文時代前期初頭の漆液容器（土器）について」（『夫手遺跡発掘調査報告書』松江市教育委員会・（財）松江市教育文化振興事業団，2000年3月）
- 「縄文時代中期土器の漆塗りについて」（『栗島台遺跡—銚子市栗島台遺跡1973・75の発掘調査報告書—』銚子市教育委員会，2000年3月）
- 「下柳沢遺跡3号地下式壙出土の漆製品」（『下柳沢遺跡』早稲田大学校地調査室，2000年3月）
- 「長者屋敷遺跡出土漆関係資料について」（『長者屋敷遺跡発掘調査報告書』山形県長井市教育委員会，2000年3月）
- 「吉見台遺跡A地点出土の漆並びに赤彩資料について」（『千葉県佐倉市吉見台遺跡A地点』（財）印旛郡市文化財センター，2000年3月）
- 「辛亥年」銘鉄剣（国宝・文化庁，埼玉稲荷山古墳出土）展示指導管理（東京国立博物館特別展『日本国宝展』会期2000年3月25日～5月7日）
- 「出土品に見る漆工技術」（八戸市教育委員会考古学講座「漆工史」，2000年3月9日）
- 「三内丸山遺跡の漆文化に関する実証的研究」（平成11年度三内丸山遺跡特別研究推進事業報告会，2000年3月26日）
- 「北海道の漆文化」（国立歴史民俗博物館企画展示図録『北の島の縄文人—海を越えた文化交流—』，2000年7月）
- 「弥生時代の漆事情」（『歴博フォーラム 倭人を取りまく世界—2000年前の多様な暮らし—』国立歴史民俗博物館編，山川出版社，2000年）
- [2001年]
- 「1号木甲の漆及び赤色顔料について」「柳町遺跡1号木甲附属棒状留め具について—微視的観察結果と考察—」「柳町遺跡から出土した丸軛の素材について」（『柳町遺跡I』熊本県文化財調査報告第200集，熊本県教育委員会，2001年3月）
- 「額田寺伽藍並条里図」写真図版解説（『国立歴史民俗博物館研究報告』88集，2001年3月）
- [2002年]
- （財）新潟県埋蔵文化財調査事業団設立10周年記念公開シンポジウム『よみがえる青田遺跡』コメンテーター（主催）（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県教育委員会，2002年3月9、10日，新潟テルサホール）
- 「垣ノ島B遺跡土壙墓（P-97）出土漆様装飾品と赤色顔料について」（『垣ノ島B遺跡』南茅部町埋蔵文化財調査団，2002年3月）
- 「青田遺跡の漆製品・漆要具」（『（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団設立10周年記念公開シンポジウム「よみがえる青田遺跡」資料集 川辺の縄文集落』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県教育委員会，2002年3月）
- 「分谷地遺跡の漆関係資料」（『分谷地遺跡2001年度発掘調査概報』新潟県黒川村教育委員会，2002年3月）
- 「是川遺跡出土漆関係資料について」（『是川中居遺跡1』八戸市教育委員会，2002年3月）
- 「浅間山古墳出土金属製品の非破壊調査について」「浅間山古墳石室内出土漆膜の調査」「浅間山古墳出土のフェルト様素材について」（『千葉県史編さん資料 印旛郡栄町浅間山古墳発掘調査報告書』（財）千葉県史料研究財団，2002年3月）
- 「（表紙解説）木胎漆器〈複製品〉高知県土佐市居徳遺跡出土 縄文時代後期（本館蔵）」「漆の技術史・文化史」（『歴博』113号，2002年7月）
- JICA 青年海外協力隊候補生技術補完研修の実施，2002年7月31日～8月16日
- 「漆・漆器」「乾漆・夾紵」「顔料」「藍胎漆器」（『日本考古学事典』三省堂，2002年）
- 「寺院と漆器」（国立歴史民俗博物館企画展示図録『中世寺院の姿とくらし—密教・禅僧・湯屋』，2002年10月）
- 「（資料解説）重文 木造地藏菩薩立像及び像内納入品 一式」「寺院と漆器」（国立歴史民俗博物館企画展示図録『中世寺院の姿とくらし—密教・禅僧・湯屋』，2002年10月）
- 「最古の漆工芸」（『開館20周年記念特別展 技と美の誕生—名宝でつづる縄文文化— 記念講演会』山梨県立考古博物館，2002年11月10日）
-

[2003年]

- 「北海道内出土古代～近世の鉄製品の非破壊調査」(『国立歴史民俗博物館研究報告』107集, 2003年3月)
「福島県玉川村栗木内遺跡出土八稜鏡の分析」(『福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告14』福島県教育委員会・(財)福島県文化振興事業団, 2003年3月)
「分谷地A遺跡の漆文化」(『分谷地A遺跡』新潟県黒川村教育委員会, 2003年3月)
「大釜谷3遺跡出土漆製品について」(『大釜谷3遺跡』北海道木古内町教育委員会, 2003年3月)
「王賜」銘鉄剣(千葉県市原市教育委員会)展示指導管理(長野県立歴史館企画展『SOSふるさとの文化財をすくえー伝えたい古人の心と技ー』会期2003年7月15日～8月24日)
「『江戸凶屏風』修理の映像記録」(『歴博』119号, 2003年7月)
「漆技術の起源」「よみがえる江戸凶屏風」(国立歴史民俗博物館特別企画展示図録『歴史を探るサイエンス』, 2003年10月)
「縄文時代の漆文化」(第239回歴博講演会, 2003年11月8日)

[2004年]

- 「垣ノ島A遺跡出土注口土器の赤彩について」(『垣ノ島A遺跡』北海道南茅部町埋蔵文化財調査団, 2004年3月)
「赤坂遺跡出土の弥生時代の布について」(『赤坂遺跡—天地返しに伴う第10次調査地点の調査報告—』神奈川県三浦市教育委員会, 2004年3月)
「辛亥年」銘鉄剣(国宝・文化庁, 埼玉稲荷山古墳出土)・「王賜」銘鉄剣(千葉県市原市教育委員会)展示指導管理(福岡市博物館特別企画展『百済武寧王と倭の王たち 秘められた黄金の世紀展』会期2004年7月17日～8月29日)
「縄文時代の漆技術」(『日本植生史学会第19大会』シンポジウム「先史時代におけるウルシの利用」, 2004年11月)
「王賜」銘鉄剣(千葉県市原市教育委員会)展示指導管理(『百済武寧王と倭の王たち 秘められた黄金の世紀展』香川県歴史博物館 会期2004年9月11日～10月2日, 京都府京都文化博物館 会期2004年11月6日～12月15日)

[2005年]

- 「西根遺跡出土漆関係資料について」(『印西市西根遺跡—県道船橋印西線埋蔵文化財調査報告書—』(財)千葉県文化財センター, 2005年3月)
「神野向遺跡出土の漆関係資料について」(『神野向遺跡』(財)鹿嶋市文化スポーツ振興事業団, 2005年3月)
「井野城跡遺跡出土銅鈴の非破壊分析調査結果」(『井野安坂山遺跡 井野長割遺跡(第9次) 井野城跡 井野宮ノ台遺跡 井野外山遺跡』(財)印旛郡市文化財センター, 2005年3月)
「在銘鉄剣・銅印—その調査と保存活用について—」「柳町遺跡出土棒状留具の文字」(『歴史研究の最前線 Vol.4 出土文字資料の新展開』編著, 総研大日本歴史研究専攻・国立歴史民俗博物館(販売, 吉川弘文館), 2005年3月)
「瑞花双鳳五花鏡並びに鏡筥についての非破壊的調査結果」(『千葉県船橋市印内台遺跡群(27)出土 瑞花双鳳五花鏡・梅花文鏡筥分析報告書』船橋市教育委員会, 2005年3月)
「綾部山39号墓出土画文帯神獸鏡の非破壊分析結果」(『綾部山39号墓 発掘調査報告書』兵庫県揖保郡御津町教育委員会, 2005年3月)
「玉造町内出土銅印「万及私印」の非破壊調査結果について」(『婆良岐考古』27号, 村本周三と共著, 2005年5月)
「試料の採取は資料破壊なのか」(『歴博』130号, 2005年5月)
「縄文時代の工芸」 「低湿地遺跡から見た縄文文化—赤い糸玉復元に向けて—」(国立歴史民俗博物館企画展示図録『水辺と森と縄文人—低湿地遺跡の考古学—』, 2005年6月)
第50回歴博フォーラム「水辺と森と縄文人」(司会, 2005年6月18日)
「縄文時代の低湿地遺跡にみる漆文化」(第259回歴博講演会, 2005年7月9日)
「古代の鉄を考える・鉄製品をつくる—古代の製鉄と武器・武具・馬具」(朝日カルチャーセンター・横浜,

-
- 2005年8月20日)
「考古学と関連科学—古代漆塗遺物研究の現状」((財)福島県文化振興事業団福島県文化財センター白河館文化財研修講師, 2005年9月3日)
- [2006年]
「居徳遺跡出土木胎漆器の漆絵に見られる大陸の様相について」(『原始絵画の研究 論考編』設楽博巳編, 六一書房, 2006年1月)
「モノが語るヒトの営み 縄文時代の漆① 漆文化の始まり」(『日経サイエンス』36巻1号(通巻411号), 日本経済新聞社, 2006年1月)
「モノが語るヒトの営み 縄文時代の漆② 技術の高さと感性」(『日経サイエンス』36巻2号(通巻412号), 日本経済新聞社, 2006年2月)
「モノが語るヒトの営み 縄文時代の漆③ 漆で見る縄文と弥生」(『日経サイエンス』36巻3号(通巻413号), 日本経済新聞社, 2006年3月)
「吉見稲荷山遺跡出土の漆・赤彩関係資料について」(『吉見稲荷山遺跡発掘調査報告書』(財)印旛郡市文化財センター, 2006年3月)
「縄文・弥生時代の漆研究の現状」「うるし」から見えてくるもの」「漆工技術の発達と特質」「青森県是川遺跡」「弥生時代の漆塗土器と装身具」(『季刊考古学95号(特集号)縄文・弥生時代の漆』編著, 雄山閣, 2006年5月)
- [2007年]
第58回歴史博フォーラム「縄文時代のはじまり—愛媛県上黒岩遺跡の研究成果—」(総合司会, 2007年1月20日)
第59回歴史博フォーラム「漆の文化と日本の歴史」(「漆から見た縄文・弥生時代」東商ホール, 2007年3月24日)
「台方下平Ⅰ・Ⅱ遺跡出土銅系資料のX線調査結果について」(『千葉県成田市 台方下平Ⅰ遺跡』(財)印旛郡市文化財センター, 2007年3月)
「漆資料の年代を測る」(『歴博』143号, 小林謙一との共著, 2007年7月)
「後谷遺跡出土の漆関係資料について」(『後谷遺跡 第4次発掘調査報告書第3分冊』埼玉県桶川市教育委員会, 2007年10月)
「国府関遺跡出土の漆関係資料について」(『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書7—長南町岩川遺跡・茂原市国府関遺跡—』(財)千葉県教育振興財団調査報告書第583集, 2007年11月)
- [2008年]
「岡崎18号墳出土遺物のX線の調査」(『大隅申良 岡崎古墳群の研究』鹿児島大学総合研究博物館研究報告No.3, 2008年3月)
「内田端山越遺跡出土青銅鏡のX線の調査結果」(『千葉県佐倉市 内田端山越遺跡』(財)印旛郡市文化財センター, 2008年3月)
- [2009年]
「坂長第7遺跡出土の赤色漆塗壺—その理化学的調査結果について—」(『鳥取県伯耆町 坂長第7遺跡』(財)鳥取県教育文化財団, 2009年3月)
「下丹生中山Ⅱ遺跡出土 銅印「用」の理化学分析結果について」(『丹生地区遺跡群』群馬県富岡市教育委員会, 2009年3月)
「王賜 銘鉄剣(千葉県市原市教育委員会)展示指導管理(茨城県立歴史館特別展『かがやきにこめた権威と荘厳—金と銀の考古学—』会期2009年10月10日~11月23日)
「辛亥年」銘鉄剣(国宝・文化庁, 埼玉稲荷山古墳出土)展示指導管理(九州国立博物館特別展『古代九州の国宝』原品展示期間2009年11月11日~11月29日)
「白方古墳群9号墳出土の刀子について」(『茨城県那珂郡東海村 白方遺跡群』東海村教育委員会, 2009年11月)
『月刊 考古学ジャーナル No.593 特集 縄文人と漆』編著(「総論 縄文人と漆」, 2009年11月)
-

[2010年]

「木更津市土器崎遺跡出土朱漆塗壺の非破壊的調査」(『木更津市土器崎遺跡』, 2010年2月)

「千葉県内出土の独鈷石に見られる赤彩痕の分析—佐倉市吉見台遺跡ならびに成田市土屋殿台貝塚出土資料を中心にして—」(『貝塚博物館紀要』37号, 千葉市立加曾利貝塚博物館, 2010年3月)

「柏木川4遺跡出土編布の素材について」(『恵庭市 柏木川4遺跡(4)』(財)北海道埋蔵文化財センター, 2010年2月)

「瑞花双鳳五花鏡並びに梅花文鏡筒についての非破壊的調査結果—第2報—」(『船橋市指定文化財 瑞花双鳳五花鏡・梅花文鏡筒の復元模造』, 2010年3月)

[2011年]

「船形手黒1号墳出土金属製品の非破壊分析」(『千葉県成田市 船形手黒1号墳』(財)印旛郡市文化財センター, 2011年3月)

「上人壇廢寺跡出土軸端・金鼓等のX線調査」(『上人壇廢寺跡』福島県須賀川市教育委員会, 2011年3月)

「千葉市内野第1遺跡の幼児骨埋葬に伴う漆製品について」(『貝塚博物館紀要』38号, 千葉市立加曾利貝塚博物館, 2011年3月)

「(研究ノート) 箏・龍笛・能管・高麗笛・神楽笛のX線透過像」(『国立歴史民俗博物館研究報告』166集, 2011年3月)

「馬場遺跡出土赤彩資料の赤色顔料」(『千葉県印西市 道作1号墳(第2次)・馬場遺跡第5地点(第1次・第2次)』(財)印旛郡市文化財センター, 2011年3月)

「王賜」銘鉄剣(千葉県市原市教育委員会)展示指導管理(大阪府立近つ飛鳥博物館特別展『倭人と文字の出会い』会期2011年4月23日～6月26日)

[2012年]

「大夫屋敷遺跡出土銅製品のX線の調査」(『北須賀遺跡・大夫屋敷遺跡』稲敷市埋蔵文化財調査報告書第9集, 2012年3月)

「中村1号墳出土資料の理化学的調査」(『中村1号墳 本文編(第1分冊)』出雲市教育委員会, 2012年5月)

「高濃度ヒ素を含む古代の鉄関連資料の事例」(『国立歴史民俗博物館研究報告』177集, 高塚秀治他との共著, 2012年11月)